

「かごしま茶」未来創造プランの概要

趣旨

○ 生産者や関係機関・団体が一体となり、本県茶業の強みや潜在力（ポテンシャル）を生かした取組を進め、「儲かる茶業経営」を実現するための基本的な方向性を示す指針として策定

現状・課題

1 かごしま茶の生産構造

- ◇ 茶産出額は、県の耕種部門で第1位
- ◇ 面積・生産量ともに全国第2位
- ◇ 経営規模の拡大、法人化の進展
- ◇ 荒茶工場の再編・集約の加速化

→ 中長期的戦略策定の推進、戦略に基づく効率効率的生産体制の整備

- ◇ 全国に先駆けたI・TやA・I技術の導入
- ◇ 法人への就職による新規就農者の増加
- ◇ 生産者の高齢化等による労働力不足

→ スマート農業の実用化、雇用条件の整備等による担い手確保対策

- ◇ 一番茶から秋冬番茶までの長期間生産
- ◇ ドリンク原料茶の生産拡大
- ◇ 多様な品種構成
- ◇ 需要に対応した多様な茶づくりが拡大

→ ニーズに対応した茶づくり、高品質な茶づくりによる付加価値向上

- ◇ 全国トップクラスの有機栽培茶面積
- ◇ 第三者認証取得工場が増加

→ さらに安全・安心ニーズへの対応

- ◇ 全国茶品評会で15年連続産地賞受賞

→ 複数部門での上位入賞によるブランド力向上

2 かごしま茶の流通・消費

- ◇ 多様な流通形態が進展
- ◇ 全国的なリーフ茶の消費減、緑茶飲料の消費増等による仕上茶率の低下
- ◇ 「かごしま茶」の認知度が低い

→ さらにPR活動強化と新たな視点での消費喚起

- ◇ 欧米を中心に、輸出が拡大

→ 輸出促進ビジョン、有機抹茶基本構想に基づく戦略的取組の強化

本県茶業のポテンシャル

- 栽培面積、荒茶生産量ともに全国第2位
- 茶園平坦率、乗用型摘採機利用率日本一
- 経営の大規模化・法人化が進展
- 全国に先駆けたI・TやA・I技術の導入
- バラエティに富む品種構成
- 需要に対応した多様な茶づくりが拡大
- 全国トップクラスの有機栽培茶面積
- 第三者認証取得工場が増加
- 全国茶品評会「普通煎茶10kgの部」で15年連続産地賞受賞
- 欧米を中心に、輸出が拡大

「儲かる茶業経営」実現に向けた基本方針

1 生産者の経営安定

- ◇ 地域加工拠点づくりなど効率的生産体制の整備
- ◇ 高収益茶種への転換や複合経営による所得確保等、足腰の強い経営体の育成
- ◇ スマート農業の実用化による省力化
- ◇ 法人化による雇用条件や労働環境の整備等担い手確保対策
- ◇ 優良品種への計画的な改植
- ◇ 自然災害対策や収入保険制度加入推進

2 加工及び流通の高度化

- ◇ 6次産業化の取組等経営の多角化推進
- ◇ 流通の多様化に対応した販売チャネルの拡大
- ◇ 生産者、茶商による仕上茶加工の推進

3 品質・付加価値の向上促進

- ◇ 栽培・加工技術の研究・普及
- ◇ 多種多様な茶づくり（ドリンク原料茶、抹茶等）の推進
- ◇ 第三者認証（各種GAP、有機JAS）の取得推進やクリーンな茶づくりのさらなる強化
- ◇ 全国茶品評会における複数部門での上位入賞に向けた取組等による品質向上

4 消費の拡大

- ◇ 「かごしま百円茶屋」の継続実施、「かごしま茶販売協力店」との連携強化
- ◇ カテキンなどの機能性を前面に出したPRや産官学連携による研究活動の強化
- ◇ かごしま茶の魅力や特長を前面に出したPR活動や観光客をターゲットとしたPR活動の充実・強化
- ◇ 若年層への新たな視点でのアプローチ及び教育現場との連携による消費喚起
- ◇ 全国茶品評会における複数部門での上位入賞等、かごしま茶のブランド力向上

5 輸出の促進

- ◇ 輸出促進ビジョンに基づく輸出相手国に応じた戦略的取組の強化
- ◇ 有機抹茶基本構想に基づく有機栽培茶、有機抹茶の生産拡大に向けた取組強化
- ◇ 販路開拓に向けた取組強化、需要に対応した茶づくりや流通システムの機能強化
- ◇ 国際規格の第三者認証（各種GAP、ISOなど）、有機JAS認証の取得促進

6 かごしま茶の文化振興

- ◇ 手摘み体験など児童生徒が茶と触れ合う機会の拡大
- ◇ 茶の歴史や文化の掘り起こしと活用
- ◇ インバウンド等への茶の歴史や文化等の情報発信によるファンづくり

推進体制等

県、市町、農協
地区・市町技連会

連携

県茶業指導研究会
・茶業振興に関する具体的方針の検討等

連携

茶業会議所
茶生産協会
茶商協、経済連

目指す姿(2028年度)

生産者や関係機関・団体が一体となり、「本県茶業の強みや潜在力」を生かした取組が進み、「儲かる茶業経営」が実現

- ◆ 夢を持って茶業経営に参画できる環境づくりが進み、多様な担い手が確保
- ◆ I・TやA・I技術等の革新的技術が実用化され、省力化や効率化が進展
- ◆ 「かごしま茶」の認知度が向上し、国内外でブランドが確立

【目標】

項目	2017年度 (現況)	2023年度 (中間年)	2028年度 (目標)
本県荒茶の全国シェア	32%	35%	40%
1戸当たりの栽培面積	4.4ha	5.0ha	5.5ha
荒茶工場の法人化率	38%	45%	50%
有機JAS認証茶園面積	415ha	660ha	900ha
荒茶工場の第三者認証取得割合	64%	80%	95%
全国茶品評会における産地賞受賞	1部門	2部門	2部門
全国茶品評会における入賞茶種	2部門	5部門	8部門
仕上茶銘柄数 (「かごしま標章茶」の銘柄数)	518銘柄	560銘柄	600銘柄
「かごしま茶販売協力店」の登録店舗数	340店舗	370店舗	400店舗
茶の輸出額 ※	2.7億円	10億円	20億円
有機抹茶の輸出額 ※	—	8億円	16億円
煎茶の輸出額 ※	—	2億円	4億円
お茶とのふれあい教室 (小学校高学年) 受講率	26%	31%	35%

※ 輸出額にかかる目標は、「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」及び「かごしま有機抹茶輸出促進基本構想」と合わせ、目標を2025年度、中間年を2021年度とする。